

銚子の魅力を発信するちょ!

第55回



いのこ銚子

RUN伴ちばin銚子実行委員会さんの巻

孤立と偏見を思いやりのオレンジ色へ

「RUN伴^{ラン}ちば^{ども}」って何? 孤立と偏見を思いやりのオレンジ色に染め変える活動「オレンジちようし」のことも聞いてきたちょ

「RUN伴は認知症の啓発イベントです。オレンジ色のタスキをリレーをしながら認知症当事者や家族、支援者、市民がふれあって認知症への理解と支え合いを地域で広める活動です」と教えてくれたのはRUN伴ちばin銚子の実行委員長宮内沙織さん。

「オレンジ色は認知症サポーターのテーマカラー。なんとなく明るい気持ちになりますよね」と話す峯岸正樹さんは広報担当を務める。

認知症を支援するネットワーク団体が2011年に北海道函館から札幌まで約300kmをリレーしたのがRUN伴の始まり。その輪は全国へ広がっている。老いても病を得ても住み慣れた地

域で暮らすには、専門家や行政はもちろん、地域ぐるみの助け合いや見守りが欠かせない。銚子での開催を執望した主任介護支援専門員の峯岸さんが、あえて福祉職ではないカフェ店主の宮内さんに実行委員長の白羽の矢を立てたのは、交友関係も広く人望の厚い人柄を見込んだから。2人をはじめメンバー9人の呼びかけで、昨年11月ついに開催がかなう。市役所発着でJR銚子駅、飯沼観音を通る4kmのコースに総勢100人以上が参加。介護経験のある人や介護・医療従事者など地域の人の盛り上げで「想像以上に盛大に」開催することができた。

新型コロナウイルスの流行で開催できない今年は9月21日世界アルツハイマーデー

に合わせ、9・10月の毎週月曜日にオレンジ色を身に着ける「オレンジちようし」を実施中。認知症の人に優しい地域を目指して「心のタスキをつなげよう」と呼びかけている。

例えば、家庭でおじいちゃんや認知症になると生活リズムが変わって家族にも影響が及ぶ。そんなとき怒るばかりでは認知症の人は委縮してしまう。峯岸さんは、3世代で暮らす家庭が多い西部地域で子どもたちなどに認知症の人の気持ちを体験する講座を開催している。「怖いのは偏見と孤立です。変だからもう嫌い、ではなく理解するもう一歩を踏み出してほしい」

認知症は高齢者の問題と捉えがちだが40代で発症することもある。「若いと余計に周囲から理解されにくく、仕事を失って社会から疎外されるケースもあるんです」と宮内さん。

自分の将来に少しでも不安がある人へ、「まずは近所の人と挨拶を交わすだけでもいい。自分のできることから誰かにつなげる機会をつくって」「ひとりでも悩まないでほしい」と二人。

あなたも月曜日にはオレンジ色を身に着けてみませんか。

オレンジちようしはSNSでも参加OK。オレンジ色のファッションや風景の写真に「#オレンジちようし」をつけて投稿してちょ



▶ RUN伴ちばin銚子実行委員会のメンバー(右から)宮内沙織さん、江見晴絵さん、阿曾ゆかりさん、神原政好さん、峯岸正樹さん。

▶ イベントなど活動はFacebookで確認できます



▶ 昨年初開催したRUN伴ちばin銚子の様子。オレンジリングがもらえる認知症サポーター養成講座は各地域包括支援センターで開催中。詳しくは高齢者福祉課 ☎(24)8754へ

わんぱく登場



まな 阿野 茉那ちゃん
H30年11月生まれ



お子さんの写真を 広報に載せませんか?

就学前のお子さんが対象です。
住所、氏名、連絡先、お子さんの名前(ふりがな)、
生年月日を記入し、写真を郵送かメールで送付。
窓口でも受け付けます。

☎秘書広報課 ☎(24)8823
<郵送>〒288-8601 若宮町1-1
<メール>koho@city.choshi.lg.jp



広報ちようしは、読みやす〜わかりやすいデザインのため「UD(ユニバーサルデザイン)フオン」を使用しています。



人のうごき 令和2年9月1日現在 人口 59,434人(-132人) うち外国人住民人口 2,288人
男 28,821人(-72人) 女 30,613人(-60人) 世帯 27,229世帯(-33世帯) ※カッコは前月比
令和2年8月中の人口動態 出生 13人 死亡 78人 転入など 66人 転出など 133人